

# 報 告 書

開催日時	平成 25 年 11 月 21 日 (木) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 20 分	
開催場所	陸前高田市役所 4 号棟 3 階第 4 会議室	
出席議員	挨拶	佐藤信一班長 (産業建設委員会委員長)
	司会進行	菅野 広紀
	報告者	佐々木一義
	記録者	菅野 定、伊勢 純
	議員	伊藤 明彦
参加人数	6 名 (水産加工業者)	
懇談テーマ	水産加工業の現状と課題について	
主な要望 ・ 提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁港の再建があまり進まない。</li> <li>・ 養殖業にも取り組んでいるが、河川から例年になく泥水が流出している。カキやエゾイシカゲガイに死滅が見られる。気仙川や長部川など、泥水が工事現場から流れ出ている。カキ棚の下層で死滅が多い。コンブやワカメなどにも影響が出ると思う。こうした問題に漁協がとりまとめをしている。また県でも把握している。</li> <li>・ 沖洲がなくなった。</li> <li>・ 勝木田の区画整理事業の際には、流出した泥水で個人の推定としてはアワビが 2 万個死滅した。</li> <li>・ 砂防ダムにたまった土砂を撤去してほしい。</li> <li>・ 漁港の整備がまだで、高潮で浄化槽の配電盤がショートした。工場の半分に水が上がってくる。市から県・国へ要望してほしい。浄化槽がしっかり稼働しないと仕事に支障が出る。</li> <li>・ 泥水の問題については、冷蔵庫建設中だが対策をとっており、泥水の流出につながらないようにしている。</li> <li>・ 市内各地の堤防工事では、オイルフェンス状のもので泥水の拡散を防ぐ対策がとられていない。泥水については少し我慢をするようではないか。</li> <li>・ 側溝にたまった泥が一気に流れることもあるのではないか。補修に取り組んでほしい。</li> <li>・ 震災後の状況としては、まず二重ローンが心配だった。また販売先がなくなった。今は人手不足。ハローワーク等に頼んでも集まらない。賃金の改善も取り組んだが集まらない。ボランティアや応援職員から聞くと、高田に来てかまわない、余生を高田で過ごしたいという人</li> </ul>	

	<p>もいるという。ところが、住まいの問題が大きく実現できない。仮設住宅の利用後の活用方法について、何とか利用に道を開いてほしい。</p> <p>また、ボランティアさんからは何年か高田で働きたいという人もいたので、雇用促進住宅のようなものを何とかして建設したい考えもある。その上で仕事とのマッチングを図っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20代、30代の職員を海外に研修に出している。様々な経験をさせた上で、地元で定住させたい。</li> <li>・ 中国からの研修生を受け入れているが、3年で45名という規制がある。5年とか、10年にできないか。釜石や宮古でも同様の要望がある。</li> <li>・ 従業員は250人ほしいが、180名しかいない。</li> <li>・ 同様に40名ほしいが、30名しかいない。</li> <li>・ 従業員の募集は、今後の事業展開をみて決めたいので、現在は募集していない。</li> <li>・ 従業員の構成は、地元の人が多く就業している中で研修生を受け入れたい。</li> <li>・ 地元へ就業する若い人への対策として、何らかのアクションを起こす必要があるのではないか。</li> <li>・ スーパーは、売り先に他産地のものが並んだりして売り場の困難さがあったが、今は人手不足の問題が大きい。</li> <li>・ 他の職場を見学・研修できる県の制度もあるが、従業員は他の職場を見るだけでも様々な刺激となり効果が大きい。</li> <li>・ 中小機構のアンケートで都会の人を仮設住宅に入れられないか、話があった。</li> <li>・ 前浜ものが泥水の被害を受けていることにショックを受けた。ぜひ対策をとってほしい。</li> <li>・ 中小機構から聞き取りがあった。</li> <li>・ 仮設店舗の取り扱いを明確にしてほしい。</li> <li>・ 市内では仮設店舗を漁業用に使っている人が少ないと聞いた。</li> <li>・ 浸水地域の土地利用をどうするのか。</li> <li>・ 事業所の進出に地元の人たちが不安になっている。あるいは何かメリットがあるのか、など、地元への説明会等、きちんと進めてほしい。</li> </ul>
<p>所 感</p>	<p>○佐藤信一</p> <p>出席者は少なかったが、直接現場の生の声を聴きながら意見交換ができ、有意義なものであった。復興関連工事による養殖への影響については、早急に調査の必要があると感じた。</p> <p>また、様々な課題に直面している中であって、企業ごとに工夫した取り組みを展開させていた。仮設住宅の有効な活用方法等、出された意見や</p>

要望等を当市の産業振興のために反映させていくべきと考える。

○佐々木一義

雇用確保が最大の悩みとのこと。都会にいる人で、被災地での就職を望んでいる人がいるが、住むところがない。仮設住宅に住まいの被災者が大挙した住宅を利用し、被災地に働き手を呼び込む策を講じ、雇用を確保し、安定経営を望むという切なる声を聞きました。

○伊勢純

現在、市内各地で進められる復興関連の工事により、河川への泥水の流出が指摘された。貝類での死滅につながっているとの指摘や藻類への影響を懸念する声もあり、慎重に因果関係を明らかにする必要があると思う。

また、働き手の不足問題は深刻であり、各事業所の取り組みや工夫などを知る機会となったが、市民の複雑な現状をうかがえるものとなった。これまでも地元企業への就業については議会で提案をおこなってきたが、より前進した政策を打ち出していくことが求められていると思う。同様に、従業員の住まいの問題として、仮設住宅の柔軟な運用や将来的な利活用の要望もあった。

○菅野定

築地市場にて日本一の評価を受けている陸前高田のカキを守るため、水産関係の方がたから指摘がなされました。大雨などで河川から泥水が海の生物に付着するという。最悪の場合、海藻に泥が付きその海藻が死滅するとか、カキ、ホタテなどに付着し呼吸ができずに死ぬ事があるそうです。今はまだそのような状況にはなっていないと思われませんが、これからは「日本一の海産物資源が陸前高田にあるんだぞ！」と発信するためには今から何らかの対策をしていくことが必要ではないでしょうか。

震災復旧復興の工事現場が太平洋沿岸に多数あることから海が汚れます。市内の工事現場等では対応していると思いますが、業者さんには極力泥水を出さないように心からの協力を求めて行き、また、市民一人ひとりの力と市民みんなの力で泥が海に流れていかないように側溝の泥などを法面や畑や花壇に使うとかする。そのように行動することで海の生物の死滅の危険を回避できるのではないのでしょうか。

「きれいな海を残して行きましょう！自慢できる海産物がとれるようにしましょう！」と当局にも働きかけていきたいし、市民にも業者さんにも呼びかけていきたい。特に3・4月のわかめなどの大切な時期は海に泥を流さないよう市内全域に呼びかけましょう。

○菅野広紀

復旧・復興に向けての高台開発に伴う漁場への泥水の流入を懸念する

	<p>声があり、何らかの対策は必要と感じた。</p> <p>水産加工社から労働力確保の要望の必要性を感じた、それと現在の中国・フィリピン等からの労働力も必要だが、近年弱電・縫製業への進出しているベトナム等の研修受入の可能性も模索すべきではないか。</p> <p>○伊藤明彦</p> <p>復興交付金事業における水産加工施設整備については、順調に進んでいるが、人手不足が心配される。</p> <p>台風の襲来の影響で、水産物に泥が付着することが課題に。</p>
--	---

陸前高田市議会 議会広聴広報特別委員会  
広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成 25 年 12 月 2 日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第 10 条第 1 項の規定により提出します。

平成 25 年度議会報告会 3 班（産業建設班）

班 長 佐 藤 信 一

